

キャベツの出荷規格を確認する
生産者ら



上旬、キャベツの出荷規格を統一のために目ざろえ会を開いた。部会員12人が参加した。

目ざろえ会では、同JAの担当者が生育状況や出荷規格を解説した。JA全農みえや県伊勢志摩地域農業改良

普及センター

の担当者は、市場情勢や今後の栽培管理などを説明した。同JAの担当者は「ヨトウ類の発生が一部に見られたが、11月中旬からの気温の低下で生育が順調に進み、出来は上々だ」と話す。

同部会では、同JA小俣集出荷場で11月上旬から加工業務用キャベツの出荷を始めており、来年3月下旬までに約800トを関西市場に出荷する見込み。

出荷では、出荷用段ボール箱の代わりに鉄製コンテナを使い、作業の省力化と生産性の向上に取り組んでいる。